

平成28年

2月の重要農作業

四国中央市農業振興センター

《問い合わせ先》

四国中央農業指導班

(果樹) 東予地方局産業振興課産地育成室

(畜産) 東予家畜保健衛生所

TEL 23-2394

TEL (0898) 68-7322(代)

TEL (0897) 57-9122

【天気予報】

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)
2012年	5.3	9.0	1.5	63.0
2013年	4.4	8.0	1.1	75.0
2014年	6.0	10.1	2.1	29.5
1981~2010年	6.1	9.7	2.6	52.4

※気温については、1ヶ月の平均値

【作物】

1 麦 (生育中期の管理)

(1) 中間追肥

播種の遅れにより生育が遅れている場合は、分けつと生育促進のため2月上旬頃までに中間追肥を施用して下さい。施肥量は窒素成分で2kg/10aを目安にしますが、この時期の追肥は倒伏の危険性が高まりますので、葉色や生育状況により加減して下さい。

(2) 土入れと麦踏み (倒伏防止、分けつ (根張り) の促進効果)

本葉3~4葉期頃から茎立ち期までの間で、土壌が乾燥している時に15~20日間隔で3回程度実施して下さい。なお、土壌が過湿の場合の麦踏みは土壌が固結したり、茎葉の損傷が大きくなる場合がありますので、必ず土壌乾燥時に行って下さい。

また、麦踏みの後に土入れすると折れた茎葉を覆土して生育障害を招くので、必ず土入れ作業後に麦踏みを行うようにして下さい。

(3) 排水溝の点検

排水溝の点検・作溝を行い、雨水の排水促進に努めて、湿害を防止して下さい。特に、排水溝は必ず圃場の外まで導いて、雨水が圃場外に排水されるようにして下さい。

(4) 雑草防除

生育期の雑草防除はハーモニー75DF水和剤を使用して下さい(下表参照)。なお、使用に際しては、飛散の少ない専用ノズルを使用するなど、隣接作物に薬液がかからないように散布して下さい。使用器具は使用後に消石灰500倍による水洗いを行って下さい。

薬剤名	適用雑草名	使用時期	10a当たり使用量		使用回数
			薬量	希釈水量	
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 スズメノテ ツボウ	節間伸長前まで (ただし、スズメノテツボウ5葉期まで)	5~10g	1000	1回

2 水稲 (栽培計画の検討)

気象条件や土壌条件に適した品種を選定し、極早生から晩生品種の組み合わせによる労力分散や異常気象(極端な高温、乾燥など)の災害回避、農業機械の有効利用など、効率的な生産が図られるように考慮して下さい。

<真鍋>

【野菜】

1 サトイモ

圃場準備

石灰窒素を、植付け30日前までに40~60kg/10a施用して下さい。

なお、完熟堆肥の施肥量が少ない、もしくは無施用の場合に、アヅミンを40kg/10a施用して下さい。

2 ヤマノイモ

(1) 圃場準備

植付けを2月中旬頃から始める場合は、早めの圃場準備を心がけて下さい。

降雨後の土壌水分が多い状態で畝立て作業等を行なうと、土を練り、酸素欠乏による生育不良や芋の形状悪化の原因となります。天気を確認しながら、圃場条件が最良のときに作業を行って下さい。

なお、完熟堆肥の施肥量が少ない、もしくは無施用の場合に、アヅミンを40kg/10a施用して下さい。

(2) 種芋準備

無病な優良系統の種芋を準備して下さい。

蔓首を切り除き、1個切片芋が50g程度になるように切断して下さい。

種子消毒

農薬名	病害虫名	使用方法及び注意事項
ベルコートフロアブル	青かび病	植付け前200倍で10分間浸漬する

(3) 害虫防除

コガネムシの被害が大きかった地域は、植え付け前にダイアジノンSLゾル25倍(液量1000/10a)を散布し、速やかに土壌混和して下さい。

タネバエには、植付け時フォース粒剤4kg/10aを植溝に土壌混和して下さい。

2 タマネギ (施肥)

2月中旬と3月下旬にしあわせ化成または、NK化成特11号を40kg/10a施用して下さい。ただし早生系では、2月の追肥を最終として下さい。

施肥の際に土壌が乾燥していると肥効が十分発揮されないため、乾燥が続く場合は、畝間灌水を行なった後に実施して下さい。

3 ソラマメ (整枝・誘引)

冬期の管理は、側枝の制限と整枝・誘引が重要です。整枝作業は晴天日の日中に行い、側枝6~8本を残すことを目標に、細く徒長した枝や遅れて発生した短い枝を順次除去して下さい。

また、支柱を設置し誘引をすると、茎や莢に光が良く当たるようになり着果促進と品質向上が期待できます。

<越智>

【果樹】

1 安定生産に向けた冬期管理とせん定

今年は裏年廻りとされ、樹勢回復、落葉防止などの着花確保対策が大切です。収穫後2~3回程度、窒素主体の葉面散布により樹勢回復と落葉防止を図るほか、石灰資材投入による土壌酸度の矯正、堆肥投入など土づくりに努めて下さい。

裏年のせん定は、時期は遅めで程度は軽く、間引き主体に行います。一方、着花過多が予想される樹は、発芽までにせん定して春枝(結果母枝)を多く発生させるようにして下さい。

2 病虫害防除

冬期マシン油乳剤散布は、ミカンハダニ、カイガラムシ類に高い防除効果が期待できます。1月に散布できなかった園では、2月下旬から3月中旬の発芽前に散布して下さい(冬期に2度散布しない)。

散布濃度は95%製剤45倍(弱勢樹では97%製剤60倍が適当)ですが、商品により登録内容が異なるので使用時に農薬ラベル表示を必ず確認して下さい。また、かいよう病防除でICボルドーを散布する場合は、2週間あけて下さい。

なお、かいよう病については被害枝葉を、黒点病については枯れ枝を除去することもポイントなので、薬剤の丁寧な散布と併せて防除に努めて下さい。

<大西>

【花き・花木】

1 しきみの害虫防除と土壌改良

芽に寄生しているダニ類やカイガラムシなどの越冬害虫を、機械油乳剤95(40倍)で防除して下さい(冬期に2度散布しない)。なお、防除時期が遅れないよう、芽が動き出す前に散布して下さい。

苦土石灰を60kg/10aを施用し、酸性土壌を改良して下さい。

2 球根養成栽培の追肥

アネモネ追肥主体の施肥体系は化成2号を50kg/10a、ランタンキュラスは山里配合2号を60kg/10aを下旬に施肥して下さい。施肥量は葉色を配慮して加減して下さい。

<日野>

【畜産】

1 確定申告に向けて

確定申告が間近に迫っていますが帳簿の整理はお済みでしょうか。簿記記帳によって得られる決算書(貸借対照表・損益計算書)は、経営を映す鏡であり、通知表と言えます。思うような成果を出せなかった農家は、何が問題であったのか、決算書や出荷成績などから課題を見つけ出し、必ず対策を行って下さい。過去のデータと対比するだけでも課題が見えてくるものです。

なお、税理士事務所に依頼している場合でも、毎月の試算表を確認するなどして定期的な経営成果の把握に努めて下さい。

2 鳥インフルエンザ対策

養鶏農家の方は今一度、飼養衛生管理基準の遵守や野鳥等の侵入防止対策の点検に努めて下さい。もし死亡羽数の増加など異常を認めた場合は、速やかに東予家畜保健衛生所に連絡して下さい。なお、対策の方法については、「12月号」を参照下さい。

3 飼料米の活用によるコスト削減対策

飼料価格の高値が続く中、管内でも畜産農家の飼料米に対する関心が高まっています。飼料米に取り組む場合、耕畜連携や取引価格等の条件交渉、また畜種によっては粳米の粉碎等を行う必要がありますので、興味のある方は家畜保健衛生所または農業指導班にご相談下さい。

<中谷>